

「痛みの少ない歯科治療」 には欠かせません



こんにちは。
梅雨は気圧の影響によって
「関節や古傷が痛む…」

というお話をよく耳にしますよね。

痛みというものは耐え難いものですが、
歯科治療においては、
その痛みを軽減させるための方法があります。

それは『**麻酔**』です。

今回は、歯科でよく使われる麻酔を
2つご紹介したいと思います！

◆1. 表面（ひょうめん）-麻酔法

治療の際、「歯に対する痛み」をやわらげるためには、
痛い場所に注射をしなくてははいけません。

しかし、そのまま注射をすると、
歯ぐきに針を刺した際に痛みが生じるため、
「そもそも麻酔の注射自体が痛い！」
ということになってしまいます。

そこで！

針を刺す場所に麻酔薬を塗り、
歯ぐきの表面の感覚を麻痺させて
麻酔注射が刺さる際の痛みを
やわらげるのが『表面麻酔』です。



また、
『**抜けかけている乳歯の抜歯**』や、
『**歯石の除去**』など、
それほど効き目の強い麻酔をするほどではない、
という場合も使用することがあります。

◆2. 浸潤（しんじゅん）-麻酔法

痛みの激しい**むし歯治療**で欠かせないのが、
歯を支える**歯槽骨（しそうこつ）**に
麻酔薬を染み込ませる
『**浸潤麻酔**』という方法です。

5分ほどで効きはじめ、
1～3時間ほど歯の神経を
麻痺させることができます。



また、歯科で使われる麻酔の針は、
痛みが少ないように**細い針**が使われており
「刺さった時の痛み」が
少なくなるようになっています。

他にも、
浸潤麻酔が効きにくい場合に
「脳とつながる神経の周囲」に麻酔をする
『**伝達麻酔法**』や、

歯と歯を支える骨の間にある
「**歯根膜**」に麻酔を行う
『**歯根膜内注射法**』など、
歯科医院によっても
取り扱っている麻酔はさまざまです。

当院では、**皆さまが安心して通える歯科医院**を目指して
「痛くしないための工夫」に努めていますので、
麻酔で気分が悪くなった経験や、
痛み不安がある方はぜひ事前にご相談ください。

SEE YOU
NEXT TIME

